

LEGACY
OF
SPORT
VOL. 6

専修大学スポーツ研究所公開シンポジウム2013

カレッジスポーツの チカラを考える

2013年10月21日(月)

4、5限(15:00-17:45延長あり)
専修大学生田キャンパス10号館10301教室



基調講演 「スポーツの文化的価値とその可能性」 <15:10-15:50>
松浪 健四郎 (日本体育大学理事長)

対 談 「カレッジスポーツのポテンシャル～スポーツを通じた地域貢献とその未来像～」 <15:50-16:30>
松浪 健四郎、佐藤 雅幸 (専修大学スポーツ研究所所長)
山田 健太 (専修大学文学部人文ジャーナリズム学科長)

シンポジウム

「カレッジスポーツの限界と可能性」 <16:40-17:40>

田中 理恵 (日本体育大学助教/オリンピック)

長澤 和樹 (専修大学サッカー部/ユニバーシアード日本代表キャプテン)

山田 健太 (専修大学文学部人文ジャーナリズム学科長)

聴講無料

協力 主催 大塚製薬株式会社
専修大学スポーツ研究所 sports@isc.senshu-u.ac.jp 044-911-1032

カレッジスポーツの力を考える

～大学スポーツ復活に向けて～

近年、我が国においてスポーツの文化的価値が注目されるようになった。その背景には、近年のオリンピックをはじめとする国際競技大会における日本代表選手の活躍はもちろんのこと、2期継続している東京オリンピックの招致活動が各種メディアで大きく取り上げられ、国民へのスポーツ文化の価値を広める好機会となっていることがあげられる。これらは、2020年東京へのオリンピック招致の決定で、更に加速していくであろう。

これらのムーブメントの背景には、平成12年に策定されたスポーツ振興計画や、それに引き続く平成22年のスポーツ立国戦略、そして平成23年に制定されたスポーツ基本法があるだろう。特にスポーツ基本法では、条文において「スポーツは世界共通の人類の文化である。」と定義され、スポーツが有する様々な“チカラ”によってスポーツ立国の実現を目指すことが明記されている。その中には、大学の役割も謳われ、スポーツに関する研究の推進や、スポーツの普及、競技水準の向上がその役割としてあげられている。カレッジスポーツが有するポテンシャルに目が向けられているということが出来るだろう。

このような現状のもと、各大学は様々なスポーツに関する取り組みに着手し始めている。国際競技大会にて活躍できるアスリートの育成施設の整備、専任コーチの採用、大学アスリートを積極的に取り上げた広報活動、大学を拠点にした総合型地域スポーツクラブの設立。これらの取り組みは成果を挙げつつあり、アスリートとともに大学がメディアで取り上げられ、スポーツ界を盛り上げる一方、それが所属学生の帰属意識の醸成へと繋がっていることも報告されている。

今回のシンポジウムでは、『大学におけるスポーツの価値を掘り起こし、現在の社会背景のもとに求められるカレッジスポーツの未来像を描き出すこと』を目的に、現在多くの国際レベルのアスリートを育成し、カレッジスポーツ戦略に先駆的に取り組む大学関係者と本研究所ならびに学生、ジャーナリズムの専門家をコラボレートして論を展開する。

―― シンポジスト ―――



松浪 健四郎 (まつなみ けんしろう) 氏 日本体育大学理事長

1946年大阪府生まれ。元衆議院議員（3期）。大阪府立佐野高等学校、日本体育大学、日本大学大学院修了。アフガニスタン国立カブール大学講師。専修大学教授、明治大学、麻布大学、日体大大学院講師、日本大学客員教授などを務め、元自民党副幹事長、現日本レスリング協会副会長、日本アフガニスタン協会理事長などを歴任。現在は学校法人日本体育大学理事長を務めている。



田中 理恵 (たなか りえ) 氏 日本体育大学助教/オリンピック (2012ロンドンオリンピック)

1987年、和歌山県生まれ。日本体育大学大学院修了。同大学研究員を経て現職。大学4年時の2009年に全日本選手権で2位に入賞し、一躍注目を集める。2010年、兄と共に世界選手権の代表に選出。日本の団体5位入賞に貢献した。また個人でも決勝進出を果たし、17位と健闘し「エレガンス賞」を受賞。広州アジア大会では団体の銀メダル獲得に貢献するとともに、個人総合で銅メダル、跳馬でも銀メダルを獲得した。2012年のNHK杯体操女子個人総合において初優勝し、ロンドンオリンピック出場を果たした。2020年東京オリンピックの招致活動においても、プレゼンターを務める等、招致に貢献を果たした。



長澤 和輝 (ながさわ かずき) 氏 専修大学サッカー部/ユニバーシアード日本代表キャプテン

1991年、千葉県生まれ。専修大学体育会サッカー部所属（主将）。ポジションは、ミッドフィールダー。2010年に専修大学へ入学。1年生でレギュラーに定着し、2年時には全日本大学選手権優勝に貢献した。また、2011年から2年連続でデンソーカップチャレンジサッカーの全日本大学選抜に選出され、ベストイレブンを受賞。2013年、横浜F・マリノスに特別指定選手として加入。4月3日のナビスコ杯グループリーグ第3節大宮アルディージャ戦で途中出場し、公式戦デビューを果たした。同年7月、ロシア・カザンで行われる第27回夏季ユニバーシアードに日本代表キャプテンとして出場し3位入賞を果たした。



山田 健太 (やまだ けんた) 氏 専修大学文学部人文ジャーナリズム学科長/司会

1959年、京都生まれ。専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科教授。専門は、言論法、人権法、ジャーナリズム論。BPO(放送倫理・番組向上機構)放送人権委員会委員、日本ベンクラブ理事・言論表現委員会委員長、日本公法学会、国際人権法学会、日本マス・コミュニケーション学会、日本出版学会(理事)等に所属。社団法人自由人権協会理事・事務局長、講談社『僕はパパを殺すことに決めた』調査委員会委員など歴任。84年から2006年まで日本新聞協会で、国際、編集、経営業務などを担当する。著書には『放送法を読みとく』商事法務 2009年刊(共編著)『刑事裁判と知る権利』三省堂 1994年刊(共著)など。

日 時：平成25年10月21日(月) 15:00～17:40 (延長あり)

場 所：専修大学生田校舎10号館10301教室 (参加費無料)

向ヶ丘遊園駅(小田急線)北口よりバスで約10分

問い合わせ：スポーツ研究所 (sports@isc.senshu-u.ac.jp/044-911-1032)

